

第27回総会・懇親会＝7月14日(土)

あの青春を再び！ ぜひ誘い合って

久しぶりに楽しい集いを持ちましょう！

当番幹事79期の同期の方々、また前後の皆様のご協力を！

——出欠のご返事は6月30日までによろしく——



静中・静高関東同窓会
 会報 第51号
 平成13年6月20日発行
 編集人 上杉重吉

平成十三年年度

関東同窓会総会・懇親会

日時・七月十四日(土)午後一時より

場所・東京都中央区八重洲一丁目三

(さくら呉服橋ビル8階)

ひょうご倶楽部・東京 電話〇三―三二七三―一四〇九

会費・五千元(年会費の三千元は当日受けもいたしますが、

この会報に同封の振込用紙によりご納入をお

願い申し上げます。)

議題・平成十二年度事業報告、会計報告。

・平成十三年度事業計画、予算。

・役員の変更。そのほか

◎武村千鶴さんのお話

◎懇親会

武村さん：69期、旧姓黒柳。

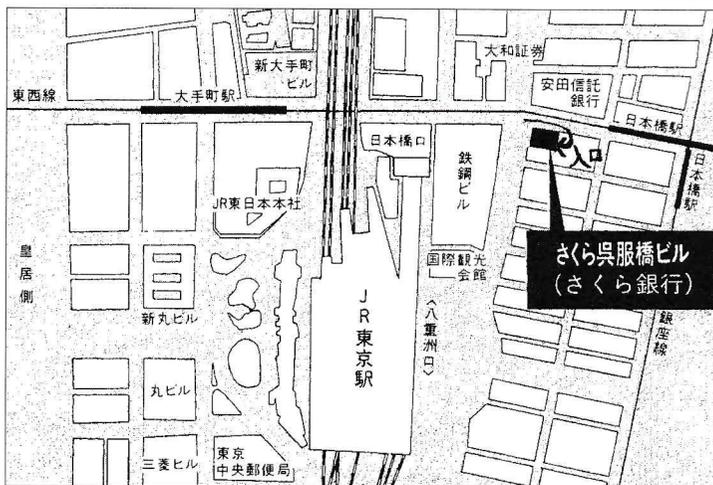
細川政権時の大蔵大臣をつとめた、さきがけ代表の武村正義氏の夫人。滋賀県知事から国政へ、さらには大臣へと進まれた夫を、自らも歯科医師として活躍されながら、物心両面で支えてこられた。大津市在住。

(同封はがきに50円切手を貼付して、出欠とご近況を記入し、至急ご投函下さい。)

新役員一覧(案)

(総会で選任。任期三ヶ年)

会長	上杉重吉(60期)	副会長	野沢正憲(64期)
理事	山梨由記(73期)	野方重人(77期)	荒谷じつ子(68期)
理事	大長智(70期)	浦田彰(71期)	
監事	清水雅尚(77期)	垣生尚敬(78期)	深津俊郎(85期)
監事	石川嘉和(87期)	高橋宏(87期)	高橋名雄(87期)
監事	荒井千明(90期)	後藤弘枝(71期)	鳥巢修(89期)



- ・JR東京駅の八重洲口から徒歩5分。
- ・地下鉄東西線・銀座線の日本橋駅(A3出口)から徒歩2～3分。
- ・呉服橋交差点東南角のさくら呉服橋ビル(さくら銀行)、エレベーターで8階へ。

ご健勝で、ますますのご活躍を！
心からお祈り申しあげます

静岡高校から

二人の大臣誕生
四月二十六日発足の
小泉内閣で――

◇金融担当相 柳沢伯夫
七〇期
自民、静岡三区、衆議院議
員当選六回

元金融再生委員長・国土庁
長官
東京大卒、六五歳



◇文部科学相 遠山敦子
七三期
国立美術館理事長
元文化庁長官・駐トルコ大
使



東京大卒、六二歳

○衆議院議員 原田昇左右
五六期

自民、静岡二区、当選九回

元衆院税制特別委員長、決
算行政監視委員長、建設相、
運輸省官房審議官
東京大卒、七七歳

○衆議院議員 村田吉隆
七九期

自民、岡山五区、当選四回

内閣府副大臣
元経企政務次官、大蔵省課
長、労相秘書官
京成大卒、五六歳

○衆議院議員 牧野聖修
八〇期

民主、比例東海、当選二回

元法務政務次官、静岡県議、
静岡市議
中央大卒、五六歳

○参議院議員 鈴木正孝
七五期

自保、静岡B、当選一回

元防衛政務次官、防衛医科
大学副校長、防衛審議官
中央大卒、六〇歳

各期幹事一覽

幹事が変更の場合は事務局まで
お知らせください。特に幹事未定
の期は至急選出してご連絡を！

- 43: 西沢純三 44: 高橋真一
- 45: 鈴木弥門 46: 丸杉孝之助
- 47: 杉山栄一 48: 原崎進一
- 49: 菅沼 栄 杉本久敬
- 50: 丸尾文治 51: 佐伯正剛
- 52: 服部雅雄・廣川 聡
- 53: 月見里得知郎・柴崎芳三
- 54: 安東哲夫・居初良雄
- 55: 相川富士雄・法月重雄
- 56: 清水逸郎・萩原達雄
- 57: 岩井平一郎・影島利邦
- 59: 青木静男・原 淳
- 60: 堤 崇・山本雅之助
- 61: 大石次男
- 62: 63: 木下景一
- 64: 65: 野沢正憲・佐野 旭
- 66: 田中俊男
- 67: 朝比奈正三・小杉 弘
- 鈴木敏行
- 68: 荒谷じつ子・吉崎英輔
- 69: 宮崎吉英・山本龍男
- 70: 大高源之丞・大長 智
- 71: 海野幸雄・後藤弘枝
- 篠原 直・浦田 彰
- 72: 桜井亮介・深田 均
- 73: 山中博司・山梨由記
- 後藤孝子
- 74: 佐藤藤司・藤原経史
- 76: 酒井孝太郎・鈴木 浩
- 77: 清水雅尚・野方重人
- 三浦位通
- 78: 鈴木藤男・垣生尚敬
- 79: 上田尚亮 80: 吉野卓史
- 81: 鈴木素明・萩原英昭
- 82: 堀内淳司 83: 山本雅敏
- 84: 浅川洋子
- 85: 池田幸司・深津俊郎
- 86: 成岡和美・井出慎吾
- 87: 薬科名雄・石川嘉和
- 高橋 宏
- 89: 鳥巢 修
- 90: 荒井千明・米澤宣行
- 92: 山野直文
- 93: 岡村幸彦・大羽章弘
- 94: 松野敦子
- 96: 奥田規之・細沢 俊
- 97: 清水智人
- 107: 小泉輝武・開発啓之

◎幹事未定の期: 58・75・88・91・95・98・106

ひとりひとりの
ご協力を！
◎総会や同期会などの会合には億劫がらずに出席し、楽しい一刻を持ちましょう。
○年会費の拠出者が年を追って減少し、さびしいことです。関東同窓会の運営も難しくなってきました。
関東同窓会の円滑な運営のため平成13年度年会費(三千元)の納入を同封の振込用紙で、お願いいたします。
なお用紙は会報の毎号に年会費の納入済み、未納にかかわらず同封しておりますことご諒承ください。
宛先不明のため、会報返送が毎号多数あります。住所変更の場合至急ご一報のほど願います。
◎会報の広告掲載: 年2回(2万円)にご協力をお願いいたします。詳細は事務局までお問い合わせください。
◎事務局へのご連絡は:
〒153-0001 目黒区上目黒2-18-13
山中ビル タカラ歯科医院内
静岡・静岡高関東同窓会
薬科名雄(87期)
(電)〇三三七九二二五八〇
(月)金の午後1時~8時

同期会など

五一期

関東地区に在住している同期の友が平成13年4月3日に四谷のスクワール麹町の宴会場に集まった。今年のお席者は9名、広瀬君の名司会のお陰で楽しい一時を過ごした。

席上、本日欠席の田中賢一君の寄贈による「英霊にこたえる会」発行の「遺書遺詠に偲ぶ特攻隊員の心情」を全員に配布した。戦後の平和は、特攻隊員を初めとする多くの戦死者によつて築かれたことを忘れないために国民に読んでもらいたい資料である。

出席者のスピーチが始まる。高橋君はこの3月に左日の大手術を受け入院したばかりであるとのこと、今日の会合の出席に間に合ったことを喜んでいて。玉越君は去る3月23日に亡くなったクラスメイト鈴木忠男君の葬儀に同期生の高橋君と一緒に参列したとのこと。



仲間の葬儀に出ることはつらいことである。渡辺功君は今の政治家に愛国心のないことを女性代議士の発言を引き合いに出して残念に思い、これは戦後の教育に責任があると結んだ。

諫山君は多くの病気を克服して今は充実した毎日を楽しんでいる。パソコンのホームページ「年寄りのたわごと」というテーマに意見を出しているとのことである。狩野君から静岡の亡くなった方々のことにつづき、近況として、

お浅間さんの桜が満開であること、宮ヶ崎・馬場町の通りがアーケード完成で変貌したこと、静岡駅南口が開発されたなどの話があった。

司会者の広瀬君からは昨年の五一会の後で亡くなった愛すべき論敵、橋本祥一君を偲ぶ話があった。目下多趣味の生活をしており、特にゴルフ、カメラ、バードカービング、水泳などで忙しい毎日とのことと結構である。難波君は出席通知には体調を毀しているとあったが元気で出席した。ゴルフや乗馬はやめているとのこと。会計の林君は相模原市に住んでおり米軍厚木基地の近くのため航空機の騒音の被害者である。公金で防音工事をしてもらったが防音効果は今いち満足できないとのこと。最後の原崎は昨年執筆した図書を紹介した。記念撮影の後、校歌を四番まで斉唱し再会を約して解散した。

写真は前列左から玉越俊一、渡辺功、狩野安彦、広瀬毅、難波悦朗、後列左から林盛次、原崎郁平、諫山廉、高橋達郎の9名である。

(原崎郁平)

その後の同窓会活動

(平成12年11月～13年5月)

◇役員会

11月29日(水)

新宿・旧制静岡同窓会事務所

9名出席

◇第22回印高会ゴルフ会

12月1日(金)

青梅ゴルフ倶楽部

参加者：19名

優勝：小沢峻二(67期)

2位：吉崎英輔(68期)

3位：実石欣哉(71期)

◇役員会

13年1月17日(水)

神田「さがみ」

13名出席

幹事会について打合せなど

◇幹事会(兼新年会)

2月1日(木)

神田「さがみ」

32名出席

◇役員会

3月14日(水)

新宿・旧制静岡同窓会事務所(以下同所)

11名出席

◇役員会

4月26日(木)

13名出席

← 新世紀を迎え、

高らかに校歌を斉唱した
2月1日の幹事会兼新年会



◇役員会

5月18日(金)

8名出席

総会について打合せなど

六〇期

六〇期の同期会は、毎年、四月の第二金曜日と決めている。今年は四月十三日午後六時から静岡駅前へのチ東海静岡を会場に行なわれた。

母校百二十年の丁度半分にあたる六〇期は昭和二〇年終戦の年に卒業した。二五二名中、六三名が物故者となり、音信不通者が二四名いる。

今年には四七名が集まり、関東から上杉会長以下八名が参加した。参加者が減りぎみなのが気にかかった。

鳥取から参加の岡本正信君の音頭で乾杯。あいさつ・演説など一切なしの会で、あちこちにグループが生まれ、解けては別のグループができて欲談するのが毎年の例――。

同期にはきわ立つ有名人はいないが、それぞれの分野で国を背負ってきたという自負を持っている。しかし、大半が今年中に七四歳という現役を退いた今、話題は老後の楽しみ方に移ってきた。そのうちに老いが話題の中心になるだろう。

二時間後、恒例の杉本武君



静岡大火の昭和15年に入學、空襲の20年に卒業の60期

60期と同様、三菱発動機に動員、4年で卒業の61期



のタクトで校歌を四番まで斉唱して、来年の米会を期してお開きとなった。(笠間達男)

六一期

50回目の記念同期会

卒業後七年を経てその大部分が社会人となった昭和二十七年春の第一回同期会に始まり、以後、毎春四月第二土曜日を開催日と決め、その後、途絶えることなく、今年五十回目の同期会を迎えました。

恩師諏訪卓三・八十島実両先生をお迎えし、集う期友約八十名、四月十四日ホテルアソシア静岡ターミナルにおいて開催されました。半世紀にわたる同期会を此処迄支えてこれたのは、常任代表幹事加藤光成君をはじめとする常任及び各年担当の幹事諸君のお蔭と感謝する次第です。

会は篠田勤幹事の司会により、代表幹事・両先生の挨拶、年次会計報告等に続き、此の一年間に亡くなった六名の期友及び既に物故された期友に黙祷を捧げた後、竹迫友一君の音頭により乾杯、懇親会に入りました。

齢七十三、当然の事ながら

年々朋友も欠け、病床に在って出席出来ぬ朋友も多い現状ではあります。年に一度のこの場合は、戦時下、何かと束縛された不自由な時代の中でそれなりに若さをぶっつけ青春を謳歌した紅顔の美少年(？)時代にタイムスリップし、少年時代その儘に語り合う喜びに浸ります。

その一方で、年相応に夫々が多少の持病に悩んだり、無病息災ならぬ一病息災を以って健康のバロメーターにする等年寄り臭い話題も多く、又ドクター朋友に持病の悩み相談等、同期会ならではの光景も見られる中、九十一歳・八十三歳の両先生の今猶嬰鏢とした様に、まだまだ我々には、これからの人生の余韻を楽しみ得る時が多分にあるんだと意を強くしたり、様々の話題に花が咲く中、無情にも時は過ぎ、三時間近くを経て別れの時が来ました。

例年の如く望月良君の音頭とりで校歌斉唱、来年の再会を約し散会しましたが、何時、歌い聞いても校歌には胸のときめきを感じ、少年の日の活力が漲って来るような気がし

ます。

願わくはこの「岳南健児」

を特に百二十五周年に当る再来年は、甲子園の青空に響き渡るよう、野球部諸君に夢を託します。

散会後は、三々五々夫々二次会へ。小生等数名の向った先には、卒業五十周年の記念同期会を終えた山川静夫氏等六十七期生諸氏が居り、お互いの五十周年の奇しき縁(？)を祝って挨拶交換。同じ学舎に学んだ同窓の仲、胸襟を開き得る喜びを感じました。

大戦に始まり、大戦に終わった四年間の静中時代、その在校時の半分近くの年月は、勤労動員に駆り出され、満足な中学生活ではありませんでした。が、却ってそれが朋友の友情の絆を強固にし、この半世紀にわたる同期会を支え、又これからも続く原動力になっていると信じています。

幹事諸君、ご苦労様でした。楽しい一時を有難う。そして来年の幹事諸君、よろしくお願ひします。来春の同期会に思いを馳せ、期友諸君との再会を楽しみにしています。

(清水澄夫)

六二・六三期 同期会の回顧

今年も一昨年と同じ東京芝の春光会館で6月6日に関東地区クラス会を開催することとし、全員に案内状を送った。この会報発行の頃には終了していると思われるが、盛会を期待している。

関東地区クラス会が静岡と提携しながら組織的にクラス会を始めたのは、昭和58年からで、その歴史は次の通りである。

- ① 昭和58年2月18日(金) 東京竹橋会館 58名
- ② 昭和59年2月11日(土) 修善寺のぢや 36名
- ③ 昭和63年6月11日(土) 東京有楽町ニュートーキョー 28名
- ④ 平成7年1月30日(月) 東京芝・春光会館 34名
- ⑤ 平成9年6月9日(月) 春光会館 34名
- ⑥ 平成11年6月9日(水) 春光会館 31名 古稀
- ⑦ 平成13年6月6日(水) 春光会館

旅行と銘うった。春光会館は同期の川手生巳也君(日産火災相談役、前社長)のご好意により同社の施設を利用させて頂いたもので、おかげで随分と都合よく豪華なクラス会を開催することが出来、平成7年以降静岡と隔年開催が定着している。なお昭和57年以前にも会合は持たれていた。

次に、静岡で開催したクラス会は次の通りである。静岡のクラス会には恩師が出席されるが、判明分のみかっこ書きした。

- ① 昭和39年6月13日(土) 七間町校湯 26名 第11回
- ② 昭和40年4月10日(土) 松坂屋麦香村 33名
- ③ 昭和41年1月3日 同窓会館 30余名
- ④ 昭和41年8月16日(火) 用宗石部竜宮亭 24名
- ⑤ 昭和42年5月13日(土) 魚磯別館 38名
- ⑥ 昭和49年6月8日(土) 中島屋四川飯店 44名
- ⑦ 昭和52年4月9日(土) 東海軒会館 53名(4先生を含む)
- ⑧ 昭和53年10月7日(土) 入り船寿司 75名 百周年

- ⑨ 昭和57年6月19日(土) サンパレスホテル 56名
- ⑩ 昭和60年6月15日(土) ステーションホテル 75名
- ⑪ 昭和62年6月13日(土) ホテルシテイオ神仙閣 74名
- ⑫ 平成元年5月20日(土) キヤッスルホテル佐乃春 53名 還暦
- ⑬ 平成2年7月7日(土) 日興会館光琳閣 67名
- ⑭ 平成4年6月13日(土) クーポール会館 58名(4先生を含む)
- ⑮ 平成6年7月1日(金) ホテルシテイオ 54名(3先生を含む)
- ⑯ 平成8年6月8日(土) グランドホテル中島屋 60名(3先生を含む)
- ⑰ 平成10年6月3日(水) ホテルセンチュリー静岡 60名(3先生を含む)
- ⑱ 平成12年6月7日(水) グランドホテル中島屋 52名(2先生を含む)

昭和39年のクラス会が第11回と記録されているので、それ以前に10回開催されている筈だが確認出来ず、また昭和43年以降欠けている年にも開催されていると思われるが記

録がなく、今後の調査を待ちたい。静岡ではクラス会に併せてエクスカージョンやゴルフ会を実施していたが、最近はなくなくなった。
名簿や会報が次の通り発行された。

- ①昭和58年2月 名簿発行 (発行：東京)
- ②昭和58年10月 同期会誌創刊号発行 (発行：東京) 竹橋会館でのクラス会詳報
- ③昭和60年4月 同期会誌第2号発行 (発行：東京) のだやでのクラス会詳報と写真で見る懐かしの静岡時代特集
- ④昭和63年6月 名簿発行 (発行：東京)
- ⑤平成3年12月 同期会誌第3号発行 特別企画誌上同期会 在学中の資料同期会の記録 名簿 (発行：静岡)

六四期

小正月も過ぎ、江戸の街も落ち着き始めた正月十七日、我等六四期生の新年会が田町駅近くの「道灌かがり」で開催された。集まった仲間は二十三名。昨年より三名増え、年々増えていくことは大変喜びにたえない。

司会を佐野旭君にお願いし、世話人代表名波倉四郎君の挨拶、久し振りに出席した望月担君の乾杯の音頭で宴は始まった。

昨秋スポーツ振興に多大の寄与があったと、文部大臣賞受賞の稲森照男君(県体育協会副会長)、喜びと静岡の友の様子を話した。

同じ東京の空の下に住んでも学校卒業以来五十七年間、一度も会わなかった田中歌君(電通OB)と佐藤弘幸君(大妻女子大教授)が出席して半世紀ぶりの巡り会いをなつかしんだ。

佐藤弘幸君は栃木県の教員時代、学生を引率して蓼科のキャンプに行き、隣のサークルから突然「岳南健児の校歌」が夜空にこだました時は身体



がふるえて止まらないくらい感動した、故郷はなつかしく良いものだと思つたという。

静岡より直送の黒はんぺんのフライ・玉ねぎのフライが、テーブルに運ばれると、宴はいやが上にも盛りあがった。

恒例の近況報告。永田進一君、定年退職して何が一番嬉しかったかという、寒い早朝起きて会社へ出勤しなくてベッドの中で寝ていられることと(満場、拍手拍手)。仲野実君、今迄百二十歳まで生

六四期 春のゴルフ会

きると宣言していたが、新世紀に入って「死ぬ迄生きる」と方針変更、そしてゴルフは今年七十歳になったので開始、秋頃には出席すると。八木綱三君、ゴルフは学生時代に散々遊んだので今はテレビ観戦だけ、プロがドライバー、五番アイアン、パターの三本でプレーし、自分が十四本で対戦したが歯が立たなかった昔話などが続く。松下一男君、年金受給で元金を全部回収するには九十歳迄生きなければならぬと。渡辺宏一君、二年前に胃ガンの手術を受け、当時は人生が本当に淋しかった、現在はゴルフがやれる位元氣になったが健康第一と強調。益頭尚文君、糖尿病と仲良くしている、食後は必ず散歩をする。八十歳まで後三十回同期会に出席する様健康に気をつけたいと。

最後に鈴木明郎君の発声で校歌を四番まで斉唱し、七月七日の再会を約して散会した。出席者は前記諸兄のほか、岩本吉雄、加藤満、栗田行雄、長谷川直和、桜井富士男、村上喜代二、長島健、遠藤栄。

「昨日の雨で、下が湿っているから、キャリアでしっかりと稼ぐ様に……力一杯打って下さい！」との幹事の無責任な発言をうけて、曇り空の中をスタート(今回は新ハンデ決定予備選(戦)ということ)新ペリア方式で実施。

優勝はグロス90ネット72の風間政彦君、14番で池に2つも落としたが、運よく隠しホール「日頃の練習の成果を神は見放さなかった」と挨拶。同じく池に2発の蛭川博之君、「何よりもパートナーに恵まれた」とグロス86で、準優勝とベスグロを獲得。いつも彼とベスグロを競う渡辺進式君は不調で、グロス90ネット76.8で6位に沈む。パートナーが悪い!!、悪いパートナーの佐野旭君が第3位、隠しホールに救われグロス94ネット73.6。 昨春、小生に極意を授けて

(野沢正憲)

(63期 伊東 守)



下さった清水照彦先輩(61期)は、グロス88ネット74.8の4位、今一息でベスグロを逃す。奥さん孝行賞のB.Bは石原良昭君、そういえば昨春もここで同賞獲得。メーカーも同じ村松敏雄君とあって、挨拶も同君に感謝々と、恰も昨年の再現映像の如し。

術後の回復半ばで参加した川口実君。昨年末ゴルフ場で

骨折の山本和彦君。ともにスコアは不意ながら無事ラウンド出来た事に喜びも一入。

スコアや順位よりも、皆と語らう喜びと、コースに出られる幸せを噛みしめる会に変わりつつあるこの会も、永久幹事・野沢正憲君に引き続き寄り掛かりながら、更なる盛會を期している次第(予てから、70歳からゴルフを始めると言っていた仲野実君がいよいよ仲間入りする、との朗報)。

参加者は前記10名の他、伊藤剛、井上公司、岩本吉雄、稲森照男、漆畑茂、漆畑輝夫、小沢義郎、小川哲司、神谷武男、鈴木高保、時田勝博、永田進一、村上喜代二、渡辺宏一、大石次男兄(61期)。(付記)パーティー席上、版隈六世、浦田周社(74期)氏の木版画集が配られました。



(佐野 旭)

桜井新同窓会長を励ます会に同期生が集う

桜井一男同窓会長就任に伴い、同期である64期の有志が発起人となり「桜井一男君を励ます会」が、3月14日18時より静岡駅前「ブヶ東海」に於いて盛大に行われた。

戦中戦後を通し、同じ学び舎で苦楽を共にした64期生にとっては、このことは同期の誇りであり、また大きな喜びでもあった。通年行われる定時同期会以上の多くの参加を見たのも、その現われであったと思われる。

当日は来賓に野崎校長、藤山同窓会事務局長のご出席をいただき、海野安弘君の司会により開始された。参集した四十余名を代表して稲森照男君の「励ましのことば」にはじまり、桜井同窓会長の力強い挨拶のなかに、母校百二十五周年にむけた抱負と責任が語られていた。続いて幼少より親友であった片山修三君から一同による記念品の贈呈、東京より駆けつけてくれた名波倉四郎君による挨拶並びに乾杯の発声により楽しい宴に入った。

また席上、野沢正憲君の関東同窓会の副会長就任が披露され、同君の挨拶により、いやが上にも同期生の母校愛が燃え上がったと言えよう。

宴の締めは、折からは、四月の静岡祭も近く、祭典の木遣節委員長の木遣山孝一君による木遣節と二本締め、藤田栄君の挨拶をもって、目出度くお開きとなった。

なお今回の案内状の返信に設けた「励ましの一言欄」には、出欠



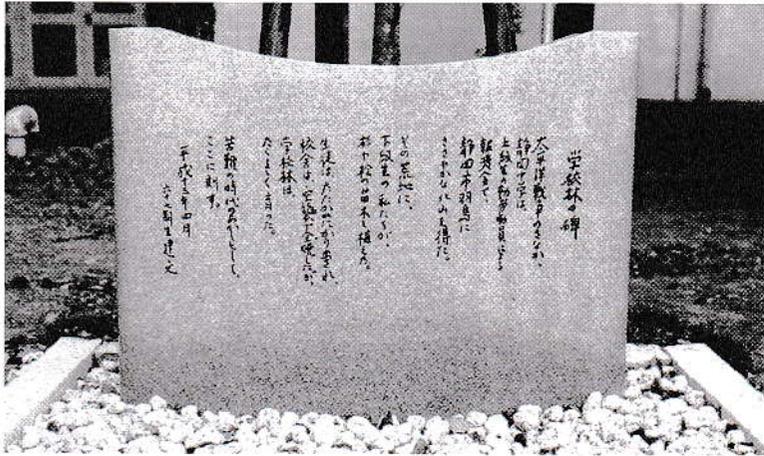
を問わず約150通のすべてに言葉が寄せられ、健康に留意せよの思いが多かったのが印象的であった。発起人としては、この催しが、同君にとって大きなエールとなり得た事を確信致しております。

(海野安弘・片山修三)

六七期
卒業半世紀記念同期会

初夏を思わせる4月14日静岡グランドホテル中島屋で開催された。時あたかも21世紀を迎え祝賀の宴に加えて、2つの記念行事が行われ特筆すべき会となった。
行事の一つは、「学校林の碑」建立と記念植樹である。

経緯は、中学1年のころ粟科川上流の久住溪谷の山に植樹したスギ、ヒノキ約1万本が先輩たちの努力で見事な美林に育った。この学校林を後のちまで語り伝えるため、母校の正門を入った旧体育館前に記念碑が建立された。
祝宴に先立ちこの場所で、関係者約60人が出席して碑の除幕式、傍らに「山法師の木」の植樹、記念撮影が行われた。記念



碑は白御影石で、高さ約70センチ、幅約90センチ。碑文は山川静夫君が発案し、光木徹君が書き記した。「苦難の時代のあかしとして、ここに刻す」と結んだ。
この模様は、朝日新聞などのマスコミ数社が取材するなど、反響があり、祝宴の席上披露された。また、静岡高校の

校長先生から石碑の話を全生徒に話して欲しいとの要請があったと聞く。嬉しい限りである。

次は、もう一つの心の記念行事「カンボジアでの学校建設支援」である。

戦後経験したひもじさを、いま困窮しているカンボジアの子供たちに「JHP・学校をつくる会」を通じて資金を贈り育成の種をまこうという企画。皆の賛同、協力の結果募金が37万円を超したとの中間報告が席上、小杉弘幹事から披露され拍手が沸く。

祝宴に先立って記念撮影。同期生のうち物故者50余名、案内状224通のうち出席者は97名。さすが団結と友情の67期。北は、宮城から西は大阪、奈良まで多彩のメンバーが笑顔で参加した。顔と名前が一致しない人もいたが、話し合うほどにお互いを確認する情景もあちこちに見られた。

今林勲幹事の司会で「岳南健児一千の・・・」の斉唱、増田智一君の幹事代表挨拶「時計を半世紀戻して旧交を暖めよう」。ついで、物故者に深い黙祷を捧げる。初めて



関東同窓会がスタートして四半世紀、いつも先頭を切ってがんばった67期諸君！

参加した関由長君(奈良在住)の乾杯の音頭でスタート。

多くの円卓について参加者は、現況、思い出、消息などひさしぶりの出会いに話も弾み、美酒のピッチも上がる。ご当地のキレイドコロがお酌して盛り上がる。奥様の介護で出席した会員も笑顔が絶えない。親しかった友と酌みかわして歩く。黒はんぺん、生しらすと幹事の心遣いがうかがわれる料理に舌鼓を打つ。

宴なかば、山川静夫君の解説で昭和初期の校門、住友の仮校舎、現在の駿府城東御門、学校林の碑などのスライドが写された。激動の青春時代を生き抜いた映像に注目が集まる。昭和天皇の行幸を住友の校庭で迎えた模様などが克明に蘇り盛んな拍手。私も陛下と間近に接した一人だが、陛下の言葉の調子が甲高いので誰彼となくおかしさを堪えていた。突然、誰かが吹き出し大勢が下を向いて一斉に吹き出した。陛下の表情は分からなかったが校長先生はじめ関係者は恐懼したことだろう。私たちは、人間天皇としての親近感を抱くことができた。

このことはたくさんのおい出の中で強く心に残っている。

また、法月郁雄君の野球部近況報告、鈴木大八郎君のエレクトーン演奏で「富士山」「りんごの歌」のメロディーが流れ、伴奏でスクラム組んで校歌斉唱。熱気も頂点に達した。織田三喜彦幹事の閉会挨拶「今日の出席率もそうだが、野球部の甲子園出場時の募金の期別成績もつねにトップグループにあり、「団結と友情の67期」に相応しい結束ぶり。100歳まで生きよう」。最後に一本めで大拍手。再会を約して散会した。金子堅司君のアイデアになる校章に67の文字をあしらった風呂敷が記念品である。

新しいパワーを得た気持ちだった。幹事諸兄等の尽力に感謝しています。

(河口正義)



静中・静岡テニス部 関東OB会

67期 児島 英男

テニス部関東OB有志の集いが、平成12年10月28日(土)明治神宮外苑テニスクラブで開催された。

当日は絶好のテニス日和に恵まれ、久し振りに、全員昔に還って若々しいプレーに熱狂した。今回はゲストとして、神宮テニスクラブのメンバーで、静岡森町ご出身の吉川大二郎氏(86歳)と、岡村英二郎氏が特別参加された。

夜は神宮外苑前のメトロ口会館で懇親会を開催。岩井平一郎氏の乾杯の音頭で宴会に入った。静岡より参加の柳沢学氏から静岡のテニス協会の近況報告があり、ご高齡の浜下市造氏に今でもいろいろお世話いただいた話、次に静岡テニス部の活動状況の報告があり、夜の更けるのも忘れ、楽しい一夕を過し、又の再会を誓って散会した。

当日の参加者・・・吉川大二郎、岩井平一郎(57期)、清

水汪(59期)、児島英男(67期)、岡村英二郎(67期)、立花雅一(68期)、柳沢学(68期)、増井良敏(68期)、大地不二雄(70期)、山中博司(73期)、大河内久(73期)、成岡和美(86期)。



江の島会へのお誘い

第五十四回江の島総会を、例年どおり九月第一日曜日に開催致します。

江の島会は住所、卒業年度、服装等何の規制もなく、誰でも気楽に参加出来ます。奥様・子供さんの参加も大歓迎です。

先輩・後輩の隔てなく、静中・静岡で過ごした青春時代を懐かしみ、夕日が相模湾を赤く染める迄語り合う楽しい会です。

本年も多くの方々の御参加を幹事一同御待ち申し上げます。

- 一、九月二日(日) 正午開会
- 一、江の島 恵比寿屋旅館
- 一、連絡先：江の島会事務局

67期 黒田秀幸
TEL・FAXとも

TEL・FAXとも
〇四五―二六一―五一八一
なお、詳細は例年通り八月下旬ごろご案内を発送しますが、初参加の方は期別、住所、氏名、電話番号を早めに事務局まで連絡下さればご案内をお送りします。

回想・随感など

静岡の万葉を歩く

(その二十二)

51期 原崎 郁平

袋井市川井の袋井中学校の玄關前に万葉歌碑が建っている。

時時の 花は咲けども
何すれぞ 母とふ花の
咲き出さずけむ

(卷二十四三三三)

防人山名郡・丈部真麻呂

遠江(とうとうみ)

白羽の磯と への浦と
あひてしあらば
言も通はむ

(卷二十一四三三四)

同郡・丈部川相

昭和四十年十月 山名

会建立 揮毫は国宝西本願寺本による

大きさ：高さ七十七センチ、幅百三十七センチの自然石に五十五×五十三センチの銅版

歌の大意は「花はその季節になったら咲いてくれるけれども、お母さんという花は咲いてくれな

いんだなあ」



「私の住んでいる町の遠州地方の白羽の磯と、への浦が近いところにあつたなら、私はあなたに便りができるのに」

歌碑の裏に彫つてある次の文章が読む者を感動させる。

「この歌は万葉集にある郷土人の歌だ。山名郡は養老六年、佐益郡(小笠郡の古名)の八郷をさいて始めて山名郡を置くと『続日本書紀』にある。

川相の名は作者が無名の農民であつて、大伴家持の歌の募集に応募するとき出生地名を名前として出され、それがはからずも千二百年後の今日では幸いして出生の地の推定の根拠をもたらしした。真麻呂の出

生地は定かでない。川相の地は西に磐田市の狩獵時代の貝塚遺跡、それをめぐる古墳群、東に高尾豊沢の丘陵に一連の古墳、北に徳光鷲巢の五・六世紀の遺跡の地を見ることが

できる。又木原川井彦島新池等に糸里制の跡を偲ぶ田字名を存している。これから推定し万葉時代にすでに農耕聚落のあつたことを考えるにたか

くない。川相の語源は原野谷川と宇刈川の合流点から川相の地名が生じたものと思ふ。

袋井中学校は宇刈川の沿岸にあつて上古の原野谷川と宇刈川の合流点に位置している。

母を慕う真麻呂と異郷にあつて故郷に思いを寄する川相の歌、これは永遠に幹流する人間の真情である。歌の文字は国宝西本願寺本による。

ここに同志相はかりて謹んで郷土人の万葉歌碑を建てる。

緑々居識 明治三十六年小学校入学者 山名会古稀記念井谷辰治以下二十五名『おほけなく 命たもちて古稀という 年にあいけり朝空仰ぐ』

昭和四十年十月建之 木型伊沢勝治 鑄形 鈴木礼治 石工 三浦崇平

名前が列記されている山名会の方々には年配からするともう亡くなつていゝのであろうが、明治時代の小学校同期生が古稀の年になつて万葉歌碑を建てたことに感動した。

袋井市には可睡斎、油山寺、法多山尊永寺などの名刹がある。法多山では名物のだんごを食べたことが懐かしい記憶に残る。

「私のゴルフ」
あれや・これや (二)

64期 佐野 旭
一年足らずで、マスターフ

ラググに買い替えて意気軒昂、日曜日にはまた練習場通いで

す。

当時はまだマイカー族など

いませんから、皆、クラブ数

本を持って、遠方から自転車

やら徒歩でやって来た様な時

代でしたが、私の社宅からは、練習場まで徒歩数分、大変恵まれた環境でした。

そして新クラブでの初ラウンドは、購入ひと月後、初バーディーのオマケ付きです。

そこで以下、珍事、快事を二ツ三ツ。
◎初バーディー

39・1・8、太田GC。上州名物ッ空ッ風ッの中での第2ラウンド、NO5・50Y・P5、第2打は風に乗り、意と異なる長打、ヘボな第3打も結果

よし、何と1パットのバーディー。ゴルフを始めて17ラウンド目の快事でしたが、トータルは110(因に第1ラウンドでは9)。

「バーディーも出す、ダブルスコアも出る、というヤツは先行き上達の見込みあり。小さく固まらんから良い!!」と例の師のこの日の誉め言葉?

◎ハーフ40台
3ヶ月後の39・4・4、コースに出ること14回目、太田GCは7回目、この日のラウンドはワンハーフ。

61・62と実力通りのスコアの後、渋々廻つたハーフが、何と48。トリプルなし、「ドーナツングロ!!」と私、「オレタチャ、やつてらんネーヨ!!」と先輩達の冷たい目。何と言われようがニコニコ。

それにしてもその後、進歩がみられません。

◎木を狙う

「素人は木を避けようとするから木に当たる、木を狙えば木

には当たらない」と言う師の指導があったのですが、素人にはマグレがあるのです。

39・5・26、埼玉国際部コース（現岡部チサンCC）。NO 9・355 Y・P.4、第1打が右ラフ、前方数メートルに直径10 cm程の立木、「細いから当たる訳がない」と、教え通りに木を狙って打つ。

打球音に続いて「カキーン」と乾いた音、「何だ？」「快心の一打は立木の真芯に当たって数十ヤードも後方へ、そしてOB。「危なかったぜ！」「怪我が無くて良かった」と皆に心配されても、「本当に狙った通り打てたんだよ！」と、本人はOBを悔やむ始末。

勿論第4打は再び木を狙うも木に当たらず、フェアウェイへ。「師の珍なる正論」

◎深呼吸

39・6・14、唐沢CC。NO 17・200 Y・打ち下ろしのP.3、第1打グリーン右のバンカーへ。これがまた、ピンフラッグも見えない深さ。見ただけでガックリ。

当時はサンドウエッジなる洒落たものは持っていませんでしたから、9番アイアンで

のバンカーショット。

二ツ三ツと叩いても上がりません。その時、師の一言、「バンカーから出て、深呼吸をしてから打ち直せ!!」。

すでにバートナーは皆さんオンしています。慌ててバンカーから出て「フツ、フツ、フウツ」と深呼吸（のつもり、急いでバンカーに戻ると、「そんなのは深呼吸とは言わん!! ゆっくり大きく呼吸せい!!」と、再度のお叱り?の間にまた二ツ、止むなく再上陸して、大きく、深呼吸回数、そして落ち着いたところで打てば、球は小気味よくバンカー脱出。

グリーン上からは「オイオイ!!」「アレレ!!」「エーッ」の声、当人が見る間もなくボールはカッピン。それからしばらくは「200 Y 第1打バンカー、そこからノーズロ」と宣伝。小さな声で「スコアは7」と喋っていたものです。

◎チップショット

39・9・23、伊香保CC。NO 12・360 Y・P.4、グリーンエッジからバターで、「あわよくばバーディーを」と狙っていると、ここでも、ウルサイ師。「スコアメイクに拘るな、チッ

ブだ、チップ!!」「ここでやらんきや、どこでやるんだ」「そんなんじゃ、いつまでも身につかんぞ!!」。

これだけ曇みかけられれば、「そーですネ、ハイ!!」と言わざるを得ず、不承不承持ち出した7番アイアンで、仰せのまま(?)に打てば、コロコロコロ...と見事チップイン、意外な出来事に本人がビククリ!「イヤ、お見事、お見事。ナ、ヤレバデキルダロ...」と、誉められたのか、師の自賛か。何れにしろ、ッナイスチップでした。

こんな具合で、私のゴルフ草創期の2年間は、コース24回、35ラウンドと比較的高密度でしたが、その後は環境の変化もあって、年間数ラウンド、全くやらない年もある程ペースダウンしてしまいました。

以来三十余年、未だにダッファアの地位を保ったままですが、それなりに楽しめるのがゴルフの良いところ、と今でも「ゴルフモドキ」に励んでいる次第。ダッファアのおモシ口話はまだまだ...

「ヒトゲノム」

76期 鈴木 浩

先日、ヒトゲノムの件にて有名になった米国セレーラジエノミクス社の、クレイグ・ベントナー博士の講演を聞く機会がありました。

ヒトゲノムの解説、特許のすばやい申請等、学者としてよりも同社のCEOとして利益指向の極めて強い人物としての先入観を持っておりまし

「雑感」

78期 鈴木 藤男

とうとう会報の原稿を書くハメになってしまった。こんな言い方をするのは申しわけないが、べつに同窓会報に偏見があるわけではなくて、ただ単に自分は一生書くことはないだろうと思っただけだ。

78期は今年五十八歳になる。世代的なことでは、そろそろサラリーマン的社会的生活の幕引きが近づいていることを強く意識する頃合いであろう。

リタイアを取って意味づけ

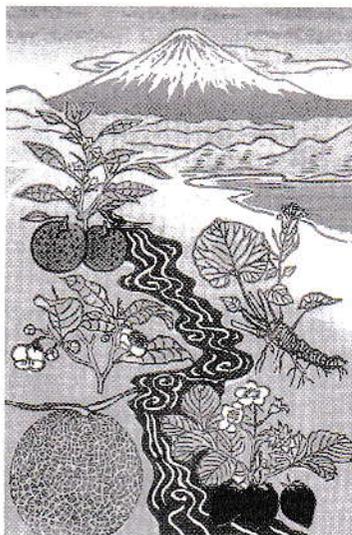
だが、同時通訳の切れ切りの話の内容からも、又その話し方からも、博士が生命科学に対する並々ならぬ情熱をもった、感覚的に大変若い気持ちで燃やし続けている研究者であるとの感じに変わりました。

ヒトゲノムの第二ステージの動きも活発化しているようで、21世紀初頭の先端技術の競争激化を感じた数時間でした。

するならば人生レースのゴールである。しかし他者との競争のゴールではなくてたった一人のレースのゴールなのである。完走であり優勝なのである。余生はさしずめレースからの解放であろう。

レース以外のところに身を置くというのは、きつと心地良いものだろうと想像する。評論家にも、指導者にも、顧客にもなれるのである。年寄りの言うことは素直に聞くものだ、なんて若い頃よく諭されたものだ。年長者を尊重すべし、という理念は不偏不党だが、尊重すべし年長者とは何かと言われると答えに窮す

浦田周社師(74期) 東京・銀座で六回目の個展



木版画「駿府の幸」(240×153)

浦田周社(うらたかかねたか)さんは、浮世絵全盛期、松平定信刊の『集古十種』の摺師として、また、全国の版画家から親しまれた、高名な駿府の『版隈(はんくま)』さんの六代目である。その伝統版画の緻密な技法を応用した現代創作木版画の創造に余念がない。絵、彫り、摺りと全てを一人で手掛け、日展入選や外国からの招待等国内外で注目されている。

その周社師が、この度、東京銀座松坂屋において、「華麗な技と奥義」と題し、第六回木版画展を開催。大好評裏に終始したが、特に、初日(四月一九日)の開催祝宴

ることもある。言わずもだが、敢えて言えば、馬齢を重ねただけの六十歳と艱難をくぐり抜けた六十歳とは同じ年長者でも年長者としてのプライオリティーが異なる。

この両者のちがいは、現役時代の社会的評価をそのまま引き継ぐわけでは必ずしもない。なぜならば「年寄りの言う事」という場合、名刺の肩書きや学歴のフィルターがないからである。年寄りが発する言葉だけがすべてである。そうなるに聞く側の力量も問われることになるのだが、まっ、いずれにしてもリアアにむけて、また新たな挑戦がはじまると思った方が良いかも知れない。取り敢えずの願望は静岡へ帰ってダラダラやりたい。

同期生との二次会後、夜の銀座を、これまで何度も歌った「朝日、夕日をデッキにあげて、続く海原一筋道を水産健児が心に秘めて、行くぞ万里の波乗り越えて。波の彼方の南氷洋は…」を口ずさみながら帰途についた。

心豊かな、楽しい一時であった。今後も、周社師の言う「浜岡の昇陽のような素晴らしい自然の恵み」を描いてくれることを願ってやまない。

(74期 花本栄二)

彼の作品に接し、何時も感じるの、見る人を描かれている画の場に連れて行き、あたかもその場にいるような気にさせ、何かを思い出させてくれることである。

作品の一つに浜岡砂丘の「昇陽」がある。見てみると、若い頃大洋で味わった船上生活が自然と思いついて来た。朝陽はそれから始まる一日の活力を、夕陽の輝きは明日への希望を抱かせてくれた。

には上杉重吉関東同窓会会長を始め、同窓、知人等数多く集まり、会場は一杯で、熱気に満ちていた。

今回はライフワークであるお水取りシリーズの「大松明上堂」の厳かな画、髪の毛の様な細い線をも描く緻密な技法を用いた大作の数々、『福興』室生の塔』に代表される、ふるさとの四季、折々の風景等多くの作品が展示された。

静中・静高関東同窓会

HP便り

昨秋より静中・静高関東同窓会のホームページを開設致しました。

内容は「お知らせ」「会報トピックス」「各期幹事」「リンク集」「歌集」の5つのページによる構成です。「お知らせ」では、関東同窓会の簡単な沿革や行事の報告や今後の日程を、「会報トピックス」では関東同窓会会報の記事見出しを、「各期幹事」では役員及び各期幹事の名簿を、「リンク集」では静岡関係のHPの紹介を、そして「歌集」では校歌をはじめ応援歌道遠歌を、それぞれ掲載しています。

「各期幹事」ページは、関東に転動して来られた方などで御自分の期の幹事がわからないという場合などに便利だと思います。また御自分の期の幹事名が掲載されていないようでしたらHP内からE-mailか同窓会事務局への電話で御連絡ください。

ささやかなページですが、IT時代の同窓会メディアとして歩んで行きたいと思っております。会員の皆様の御意見・御感想をお待ちしています。

HPアドレスは

<http://club.pep.ne.jp/~stnfre/kanto/kanto-top.htm>

(なおアドレスは、すべて英文モードで、「~」は「Shift」を押しながら「へ」、「-」はテンキー(数字を打つところ)にある「-」キーです。)

(87期 石川 嘉和)

静岡だより

①新しい応援歌

母校・静岡の創立百二十五周年を迎えて、時代にふさわしい新しい応援歌をつくらうという声に応援指導部のOBなどから出ています。いま応援指導部は部員が三年生三人、一年生一人と減少し、関係者の間には危機感も手伝わす、新応援歌の実現にエールを送る動きもあります。同窓会でも検討委員会をつくり相談することになりそうです。

二年後に迫った創立百二十五周年は平成十五年十一月十五日の式典・祝賀会を中心に歴史資料館の建設、記念誌の発行などが計画され、準備に入っています。新応援歌はこうした盛り上がりに合わせて、21世紀にふさわしい、しかも、静岡の伝統と校風を堂々と歌い上げる「名曲」を目指そうというものです。

応援指導部OBの安池康之さん(76期)の話では、これまでのいわゆる「静岡の歌」としては大正五年制定の校歌は別格として応援歌第一、二、三は戦前の作歌であり、逍遙

歌、希望の歌などは終戦間もないころつくられ、歌詞には漢文調が多くみられる。創立百周年には「岳南健児意気高し」が制作された経緯がある。

昭和二十四年、初めて十一人が入学した女子生徒が、いままで全校生の四割を占めているといわれています。百二十五周年という節目を迎え、社会情勢の変化も加味し女性にもなじみやすく、甲子園などでも若者に共感を呼び、在校生・卒業生が一体となって口ずさむような親しみやすい応援歌を期待しているようです。

作詞・作曲は著名な専門家に依頼するのか、広く一般から募集するのか具体化していませんが、同窓会の桜井一男会長(64期)も「予算とのからみも出てくるので、委員会を作って検討したい」とのお考えのようです。

②野球部の活躍

静岡県下の高校野球は、夏の大会のシード校を決める春の大会が五月上旬に展開されました。母校・静岡は打線の爆発で八年ぶりに優勝。第四十八回春季東海大会に出場、

成績は下記の通り。静岡野球部の近況をお知らせします。

○今春、野球部には十二人が入部。うち半数の六人は身長百八十センチ以上の大物。百八十センチ、八十キロの巨漢もいます。しかも中学時代の投手経験者が七人も。好素材がそろい頼もしい限りです。四月二十一日には野球部後援会(田宮俊作会長 69期)から新調のユニフォームを贈られ、表情を引き締めていました。

○今春から野球部のコーチに二人の先生が就任しました。いずれも新任で投手コーチの佐藤光先生(社会)、打撃コーチの池田新之介先生(体育・定時制)です。佐藤先生は浜松北高―慶応大へ進み、大学では投手として野球部に属し四年時では投手コーチに。池田先生は静岡12期で、中京大を経て母校の教員に。

静岡野球部では外野手として活躍、三年時に主将を勤めました。さっそく鈴木祥充監督を補佐しています。

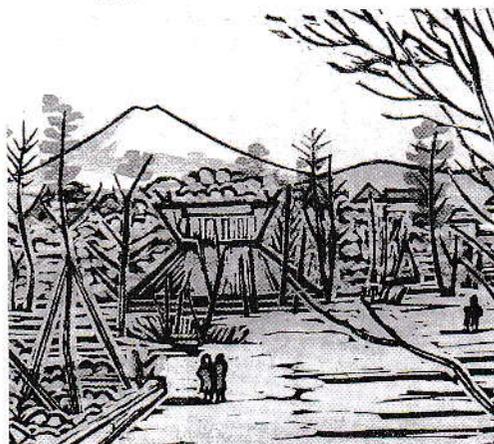
○静岡OBの石山建一さん(77期)が四月二十一日から四日間、特別コーチとして後輩を指導してくれました。石

山さんといえば昭和三十五年夏の第四十二回全国大会に出場、遊撃手・三番打者として準優勝に貢献。その後、早大―早大監督、プリンスホテルの監督として実績を残し、いまや社会人野球界の重鎮です。石山さんは昨年十二月に続いての来静でしたが、関係者は今後とも時を見て、是非お願いしたいと期待しています。

(68期 石垣祐市)

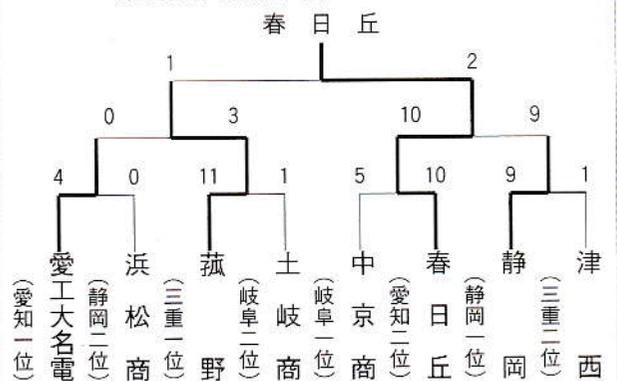
明治・大正・昭和 静岡風景木版画展

詳細はP.16に—ぜひご覧ください



「登呂の富士」 小川龍彦画 澄彦彫摺

第48回春季東海大会 (5月25日・26日・27日)



平成12年度会費拠出者

平成12年4月1日～13年3月31日
(順不同、敬称略、寄付金を含む。年会費三千元拠出の方は、数字の記載はありません。)

三枝正裕(6)、桜井昌也、志田寿一、橋本久仁寿、宗像 醇(6)、望月 昂

54 安東哲夫、居初良雄、大畑忠夫(6)、大藤直久、佐野圭司、柴崎芳三、高井 昂、渡辺治郎(2)

55 相川富士雄、青木道生(100)、小沢忠樹、中野治良、日比光明(6)、堀江重遠、松井保治、山下武男、鷺果 英策

56 青木良文、石塚由雄(6)、伊東卓爾、奥野 進、清水逸郎(6)、鈴木源一、萩原 達雄(6)、松田光彦(2)、山口 弘

57 岩井平一郎、影島利邦(6)、久保田誠三、酒井 博、坂田秀雄、島根光明、杉山正友(6)、富田 澄、山中孝二、月見里礼次郎(6)、米澤正次(5)

58 天野国明、伊藤健三(6)、鈴木榮三、須山静夫(6)、服部健一、向井 晃、望月 恵一(1)

59 青山 勇、伊藤光雄、内田武男、内田武二、大塚 恒、大村和夫、小澤武彦、小澤将男、小花敏郎、加納 久夫、狩野和男、川田 昭

近藤陽三、清水 汪、勝呂清(6)、田沢義彦、寺尾宏一郎、富永利夫、長谷川邦三、原 淳、福地 彊、曲 淵景敏、増田真一

60 有田克己、石関忠雄、井田 淳、井出裕雄、上杉重吉(6)、大石隆一、君島康弘(6)、黒田武之助(6)、小林金次(6)、酒井美高、里見元一郎、新間昌輝、鈴木 正巳、鈴木光男、谷 護治、堤 崇、時田正康、内藤敏夫、萩原莊太郎、原 善三郎、原田龍一、逸見昭三(6)、益田清開、山崎鏡次(2)、山路敬三(2)、山本正三、山本雅之助(6)、渡辺 博

61 青木邦彦(4)、相羽達雄(2)、大石次男、片桐 篤、君島敏男、清水酒郎、清水 澄夫、清水照彦(6)、高村 岳史(6)、高山秀男(6)、坪 田昭三、土井正樹、徳永重 遠(2)、西田駿之介、萩原 将弘、濱田茂明、花見 久(6)、八木貞一、山崎和夫

62 川手生巳也(5)、三枝 弘之、杉浦文雄、高田桂造、吉川隆士(6)

63 浅井幹夫、井戸良輔(6)、岩本吉雄、神谷武男、狩野 達彦、佐藤弘幸(6)、佐野 旭(6)、猿谷秀雄、塚本光彦、仲野 實(6)、長島 健、永田進一、名波倉四郎(10)、野澤正憲、蛭川博之、増田政雄、益頭高文、望月 康逸(6)、山本和彦、渡辺 宏一

64 石川制二、石川隆亮、内田幸雄、大塚修弘、大坪信之、大村敏夫、川合 勉、加藤 昭、加藤博司、菊田 聰裕、久保泰夫、小嶋清司、小杉雅宏、小林五郎(2)、小林成敏、佐藤仁彦(2)、瀬尾 章、関本和男、曾根 錦吾、田中俊男(6)、長倉 良平、中島陸生、中村伸吾、西田尚史(6)、浜田裕志、藤原朝則、藤原隆一、増井 和夫、三原 載(6)、武藤 勇、村越立彦、村松武司(6)、茂木为男、森山秀夫、安池 智策、山下裕一(6)、山梨 裕司、吉野哲郎

65 朝倉 勇、朝比奈正三、岩崎为明、遠藤一彦、大森 恵吉、岡村英二郎、小沢皎二、梶原由三、加藤友行、川上剛二、河口正義、黒田 秀幸、小坂 博、児島英男、小杉謙二、小杉 弘、塩澤 満(13)、鈴木敏行、瀧川 博、手塚重明、長倉孝三、牧田仁男、増田安国、松岡 健、丸山英久、矢部 隆、山岡 進、山川静夫

66 秋山和也(5)、雨宮明生(4)、荒谷じつ子、市原 卓、岩瀬順郊、植田勇夫、宇田貞子、大場正己、河口 浩(6)、北村公二(6)、小林 功典、酒井定子、佐藤忠行、佐怒賀洋平、杉山忠男、鈴木敏彦、瀬堂川徹、高橋俊 見、塚本浩司、仁科 将、針谷 實、林 明宏、星野 敏郎、松下司郎、横山富士 夫、吉崎英輔、渡辺郁馬

67 有田 久、石山 博(6)、遠藤和夫、大高源之丞(6)、加治信三郎(5)、片山智司、北村 孝、久沢正雄(6)、坂本 康、佐々木政之、清水令一郎(6)、白石通子、鈴木明次(6)、清 智、関 哲男、田中宏志、中馬敏雄

68 中村龍二(6)、松浦洋一郎(2)、松永 茂、宮代

69 加藤喬志、神谷貞子、狩野昌夫、小林泰三、田中輝雄、原田淑子、堀場千賀重、松島玲子、望月道生、吉田 政幸

70 有田 久、石山 博(6)、遠藤和夫、大高源之丞(6)、加治信三郎(5)、片山智司、北村 孝、久沢正雄(6)、坂本 康、佐々木政之、清水令一郎(6)、白石通子、鈴木明次(6)、清 智、関 哲男、田中宏志、中馬敏雄

71 中村龍二(6)、松浦洋一郎(2)、松永 茂、宮代

72 有田 久、石山 博(6)、遠藤和夫、大高源之丞(6)、加治信三郎(5)、片山智司、北村 孝、久沢正雄(6)、坂本 康、佐々木政之、清水令一郎(6)、白石通子、鈴木明次(6)、清 智、関 哲男、田中宏志、中馬敏雄

73 有田 久、石山 博(6)、遠藤和夫、大高源之丞(6)、加治信三郎(5)、片山智司、北村 孝、久沢正雄(6)、坂本 康、佐々木政之、清水令一郎(6)、白石通子、鈴木明次(6)、清 智、関 哲男、田中宏志、中馬敏雄

74 有田 久、石山 博(6)、遠藤和夫、大高源之丞(6)、加治信三郎(5)、片山智司、北村 孝、久沢正雄(6)、坂本 康、佐々木政之、清水令一郎(6)、白石通子、鈴木明次(6)、清 智、関 哲男、田中宏志、中馬敏雄

75 有田 久、石山 博(6)、遠藤和夫、大高源之丞(6)、加治信三郎(5)、片山智司、北村 孝、久沢正雄(6)、坂本 康、佐々木政之、清水令一郎(6)、白石通子、鈴木明次(6)、清 智、関 哲男、田中宏志、中馬敏雄

76 有田 久、石山 博(6)、遠藤和夫、大高源之丞(6)、加治信三郎(5)、片山智司、北村 孝、久沢正雄(6)、坂本 康、佐々木政之、清水令一郎(6)、白石通子、鈴木明次(6)、清 智、関 哲男、田中宏志、中馬敏雄

77 有田 久、石山 博(6)、遠藤和夫、大高源之丞(6)、加治信三郎(5)、片山智司、北村 孝、久沢正雄(6)、坂本 康、佐々木政之、清水令一郎(6)、白石通子、鈴木明次(6)、清 智、関 哲男、田中宏志、中馬敏雄

78 有田 久、石山 博(6)、遠藤和夫、大高源之丞(6)、加治信三郎(5)、片山智司、北村 孝、久沢正雄(6)、坂本 康、佐々木政之、清水令一郎(6)、白石通子、鈴木明次(6)、清 智、関 哲男、田中宏志、中馬敏雄

79 有田 久、石山 博(6)、遠藤和夫、大高源之丞(6)、加治信三郎(5)、片山智司、北村 孝、久沢正雄(6)、坂本 康、佐々木政之、清水令一郎(6)、白石通子、鈴木明次(6)、清 智、関 哲男、田中宏志、中馬敏雄

80 有田 久、石山 博(6)、遠藤和夫、大高源之丞(6)、加治信三郎(5)、片山智司、北村 孝、久沢正雄(6)、坂本 康、佐々木政之、清水令一郎(6)、白石通子、鈴木明次(6)、清 智、関 哲男、田中宏志、中馬敏雄

81 有田 久、石山 博(6)、遠藤和夫、大高源之丞(6)、加治信三郎(5)、片山智司、北村 孝、久沢正雄(6)、坂本 康、佐々木政之、清水令一郎(6)、白石通子、鈴木明次(6)、清 智、関 哲男、田中宏志、中馬敏雄

82 有田 久、石山 博(6)、遠藤和夫、大高源之丞(6)、加治信三郎(5)、片山智司、北村 孝、久沢正雄(6)、坂本 康、佐々木政之、清水令一郎(6)、白石通子、鈴木明次(6)、清 智、関 哲男、田中宏志、中馬敏雄

83 有田 久、石山 博(6)、遠藤和夫、大高源之丞(6)、加治信三郎(5)、片山智司、北村 孝、久沢正雄(6)、坂本 康、佐々木政之、清水令一郎(6)、白石通子、鈴木明次(6)、清 智、関 哲男、田中宏志、中馬敏雄

84 有田 久、石山 博(6)、遠藤和夫、大高源之丞(6)、加治信三郎(5)、片山智司、北村 孝、久沢正雄(6)、坂本 康、佐々木政之、清水令一郎(6)、白石通子、鈴木明次(6)、清 智、関 哲男、田中宏志、中馬敏雄

85 有田 久、石山 博(6)、遠藤和夫、大高源之丞(6)、加治信三郎(5)、片山智司、北村 孝、久沢正雄(6)、坂本 康、佐々木政之、清水令一郎(6)、白石通子、鈴木明次(6)、清 智、関 哲男、田中宏志、中馬敏雄

86 有田 久、石山 博(6)、遠藤和夫、大高源之丞(6)、加治信三郎(5)、片山智司、北村 孝、久沢正雄(6)、坂本 康、佐々木政之、清水令一郎(6)、白石通子、鈴木明次(6)、清 智、関 哲男、田中宏志、中馬敏雄

87 有田 久、石山 博(6)、遠藤和夫、大高源之丞(6)、加治信三郎(5)、片山智司、北村 孝、久沢正雄(6)、坂本 康、佐々木政之、清水令一郎(6)、白石通子、鈴木明次(6)、清 智、関 哲男、田中宏志、中馬敏雄

88 有田 久、石山 博(6)、遠藤和夫、大高源之丞(6)、加治信三郎(5)、片山智司、北村 孝、久沢正雄(6)、坂本 康、佐々木政之、清水令一郎(6)、白石通子、鈴木明次(6)、清 智、関 哲男、田中宏志、中馬敏雄

89 有田 久、石山 博(6)、遠藤和夫、大高源之丞(6)、加治信三郎(5)、片山智司、北村 孝、久沢正雄(6)、坂本 康、佐々木政之、清水令一郎(6)、白石通子、鈴木明次(6)、清 智、関 哲男、田中宏志、中馬敏雄

90 有田 久、石山 博(6)、遠藤和夫、大高源之丞(6)、加治信三郎(5)、片山智司、北村 孝、久沢正雄(6)、坂本 康、佐々木政之、清水令一郎(6)、白石通子、鈴木明次(6)、清 智、関 哲男、田中宏志、中馬敏雄

91 有田 久、石山 博(6)、遠藤和夫、大高源之丞(6)、加治信三郎(5)、片山智司、北村 孝、久沢正雄(6)、坂本 康、佐々木政之、清水令一郎(6)、白石通子、鈴木明次(6)、清 智、関 哲男、田中宏志、中馬敏雄

92 有田 久、石山 博(6)、遠藤和夫、大高源之丞(6)、加治信三郎(5)、片山智司、北村 孝、久沢正雄(6)、坂本 康、佐々木政之、清水令一郎(6)、白石通子、鈴木明次(6)、清 智、関 哲男、田中宏志、中馬敏雄

93 有田 久、石山 博(6)、遠藤和夫、大高源之丞(6)、加治信三郎(5)、片山智司、北村 孝、久沢正雄(6)、坂本 康、佐々木政之、清水令一郎(6)、白石通子、鈴木明次(6)、清 智、関 哲男、田中宏志、中馬敏雄

94 有田 久、石山 博(6)、遠藤和夫、大高源之丞(6)、加治信三郎(5)、片山智司、北村 孝、久沢正雄(6)、坂本 康、佐々木政之、清水令一郎(6)、白石通子、鈴木明次(6)、清 智、関 哲男、田中宏志、中馬敏雄

95 有田 久、石山 博(6)、遠藤和夫、大高源之丞(6)、加治信三郎(5)、片山智司、北村 孝、久沢正雄(6)、坂本 康、佐々木政之、清水令一郎(6)、白石通子、鈴木明次(6)、清 智、関 哲男、田中宏志、中馬敏雄

96 有田 久、石山 博(6)、遠藤和夫、大高源之丞(6)、加治信三郎(5)、片山智司、北村 孝、久沢正雄(6)、坂本 康、佐々木政之、清水令一郎(6)、白石通子、鈴木明次(6)、清 智、関 哲男、田中宏志、中馬敏雄

97 有田 久、石山 博(6)、遠藤和夫、大高源之丞(6)、加治信三郎(5)、片山智司、北村 孝、久沢正雄(6)、坂本 康、佐々木政之、清水令一郎(6)、白石通子、鈴木明次(6)、清 智、関 哲男、田中宏志、中馬敏雄

98 有田 久、石山 博(6)、遠藤和夫、大高源之丞(6)、加治信三郎(5)、片山智司、北村 孝、久沢正雄(6)、坂本 康、佐々木政之、清水令一郎(6)、白石通子、鈴木明次(6)、清 智、関 哲男、田中宏志、中馬敏雄

99 有田 久、石山 博(6)、遠藤和夫、大高源之丞(6)、加治信三郎(5)、片山智司、北村 孝、久沢正雄(6)、坂本 康、佐々木政之、清水令一郎(6)、白石通子、鈴木明次(6)、清 智、関 哲男、田中宏志、中馬敏雄

100 有田 久、石山 博(6)、遠藤和夫、大高源之丞(6)、加治信三郎(5)、片山智司、北村 孝、久沢正雄(6)、坂本 康、佐々木政之、清水令一郎(6)、白石通子、鈴木明次(6)、清 智、関 哲男、田中宏志、中馬敏雄

省一、宮本達司、柳澤伯夫、渡辺勝美

71 青木庄二郎、安藤龍男、伊藤勝、岩崎謙一郎、梅原孝允、奥村鏡一郎、片山嘉博(6)、加藤祐史、川上貫三、小池啓治、後藤弘枝、酒井力、佐藤利治(5)、実石欣哉(6)、徳田武司(2)、富野寿(6)、長倉真一(6)、西野章、本間啓司、村松綏啓、望月祐言(10)、山崎恭弘、山田卓夫(6)、矢部正和

72 石川正明、今泉烈(4)、加来義信、陰山勇一、木村順策、清水雅彦、杉本静司、高木哲夫、夏目雅之、野崎誠介、深田均、松木茂夫、山口公子

73 青木俊一郎、赤木政夫、有光一郎、安藤頼男、飯田征四郎、飯塚迪子、池ヶ谷章、石川征四郎、石川八洲夫、石川博己、石割浩司、大石堯史、小川忠夫、大村康平、大村博、加藤甫、君島武男、桑原敏久、小柳忠義、近藤守、後藤孝子、斎藤幸男、佐々木勝彦、榎原由之、三枝通康、塩津浩(6)、鈴木良明、鈴木智彦(6)、鈴木齊、鈴木

74 井手宏嗣(6)、井出鎮生、井鍋正良、白田恭三、角谷治子、木村敦(2)、熊谷敦子、桑原英明、桑原伊玖子、見城尚志、佐藤薫郷、佐藤鐘司、佐野捷造、田形嘉之(2)、塚本豊、萩原茂春、花本栄二(2)、藤原經史(15)、細川紀子、松下晴一、望月保、森下傲男、吉澤洋

75 今田肇、川瀬光彦、小林銑一、佐藤修二、篠原興(6)、鈴木正孝、望月利人

76 安東伸彦、伊藤哲治、坂内三容、富田駿介、望月敏彦(6)、鈴木齊、鈴木豊、杉山正三、杉山親司、杉山光、杉山洋司、田中重穂、富田彬道、中川明久、仲川信正、中野敦夫、中西英一、西本昇平、原崎幹雄、服部信司、羽山武、深沢靖男(6)、前田修、松永文夫、松永烈、牧野昭雄、三浦英夫、宗俊純司、望月公美、望月智、山中博司、山本昌秀(6)、山本一雄、山崎智弘、山下茂文、山梨由記、鷲巢丞男、渡辺雅俊(6)

77 栗野吉洲、石山健一、伊藤達雄、岩崎敏宏、大岩蓮(4)、大村信子、岡本天晴、加藤雅久、神戸紘一、栗田収司、小池淳夫、後藤嘉代、柴田哲男(6)、清水雅尚、菅弘彦、高谷信之、野方重人(7)、松井義之、三浦昭彦(10)、三浦位通(6)、柳川信子

78 天草静子(6)、五十嵐誠(6)、小澤安則(5)、石井博之(9)、石川暢子、石塚寿子、今村史子(6)、奥山和子、大井武子、垣生尚敬、河辺正安、小長井孝、小林俊(5)、白木桃子(2)、鈴木藤男(6)、田中奉、友安昭、細野茂(6)、牧浦義孝(10)、宮地幸、村松洋子、山上晴重、松下圭佑

79 今井元次郎、上田尚亮(6)、大石恵則、須川恒次、菅野佳男、土屋マユミ、野崎喜吉(6)、望月征二、安江經和

80 秋山幹男(9)、入谷健彦、榎本進、角谷勝彦、増田安久、吉田伸一郎(5)

81 稲村直彦、高山貞和、平口靖則、福世一巳(2)、本多英一

82 宮城島仁

83 大石高志

84 赤阪雄一郎、生駒光博(6)、小沢治夫(6)、越部薫、塩谷立、司馬立、戸塚康男、山田孝夫、水越伸昭

85 池田幸司、遠藤岳陽、永田悟、牧野英敏

86 矢部徹(6)

87 浅羽伸人、安倍敏陽(9)、新井宣夫、石川嘉和、後藤正秀(18)、塩川治郎、高橋宏、平石正史

89 池田磨佐人、伊藤靖郎(6)、鳥巢修、新村暢宏(6)、山崎真弓(5)

90 荒井千明、川島雅行(6)、栗山伸一(6)、多々良幸尋、本多豊太、森田悦三、米澤宣行

91 天川由美

92 山野直文

94 石崎秀和、松野敦子(5)、矢部龍太郎

95 石井克昌、永江総宜(6)

100 五十嵐寧

101 白井正博

102 佐藤友男(6)、鈴木史章、田村晋一(5)、土弘

106 大土原孝則、瀧徹哉

107 吉田幸弘

合計 五五五名

二、二〇八、〇〇〇円

ご協力に感謝いたし、本年も、ぜひよろしく!

◎ごらんのように、期によって年会費拠出者の多寡の差がはげしい。幹事諸兄のお力添えを期待!

「会報」編集子より

○毎号バラエティーに富んだ原稿を寄せてくださる方々に、心から感謝申しあげます。

○同窓会員の絆をより強くとの願いをこめて、さらにより充実した紙面になるよう、一層のご協力をお願いいたします。

○各期幹事諸兄姉のお世話で同期会を開催し、その報告を会報にどしどしご寄稿ください。

○原稿尊重を建て前としておりますが、加筆や訂正させていただく場合もあります。その点ご了承ください。

○提供の写真について、返却の必要があるかどうか書き添えていただければ幸いです。

原稿依頼や掲載広告について、候補と思われる方を事務局までお知らせください。事務局がお願いいたします。

(U)

鈴 与 株 式 会 社

取締役社長 鈴木 通 弘 (76期)

清水市入船町11-1
TEL 0543 (54) 3015 (秘書課)
京浜支社 東京都港区芝公園1-2-12
TEL 03 (3432) 7151

日本レーベル印刷 株式会社

代表取締役 岩井 平 一郎 (57期)

本 社 静岡市国吉田3丁目1番1号
TEL 054 (262) 1111 (代)
東 京 中央区京橋1-1-6 越前屋ビル8F
TEL 03 (3272) 4651 (代)

株式会社 富士越 株式会社 富士越化成

代表取締役 野澤 正 憲 (64期)

東京都渋谷区東2-14-9
TEL (3409) 3342 (代)
TEL (3400) 9541 (代)

自動車・火災・傷害保険

大高保険事務所

代 表 清 水 雅 尚 (77期)

渋谷区東3-15-8
TEL 3406-9350
PHS 070-5103-8920

同窓会で人の輪を!!

野方重人法律事務所

弁護士 野 方 重 人 (77期)

<事務所>

〒101-0045 千代田区神田鍛冶町3-7-3
蕨下ビル6階
(TEL) 03-3251-2348
(FAX) 03-3257-0820

☎ 昼2時より夜11時まで診療 ☎

タカラ歯科診療所

代 表 フラ シナ アキ オ 藁 科 名 雄 (87期)

東横線 中日黒下車 徒歩5分
TEL 0120-376480

相続税・法人税・所得税などのご相談はどうぞ!

鳥巢修税理士事務所

税理士 鳥 巢 修 (89期)

OSAMU TOSU

<事務所>

〒167-0041 東京都杉並区善福寺3-31-3
TEL 03-3396-3858 FAX 03-3396-3848
E-mail:tosu@mtj.biglobe.ne.jp

調剤薬局……首都圏に28店舗

株式会社 アイセイ薬局

「医薬分業は 弊社へどうぞ」

代表取締役 岡 村 幸 彦 (93期, 応援指導部)

東京都中央区日本橋蛸殻町2-14-5
TEL 03-5643-8225
E-mail:okamura@aisei.co.jp

明治・大正・昭和 静岡風景木版画展

会期 2001年6月25日(月)～7月7日(土)

※日曜休み

AM11:00～PM7:00(土曜6時まで)

会場 サンマロー(京王線調布駅東口下車、駅前)
調布市布田1-47-3 TEL0424-86-4585

父龍彦の遺した水彩画のうち、昭和51年以前の静岡風景を、浦田儀一氏の奨めにより私なりのタッチと色調で木版画に起こしてみました。ご高覧賜れば幸甚に存じます。

(P.13「登呂の富士」参照)

小川 澄彦

静岡市西草深町2-17
TEL054-253-1351